

- 1 事前: キッシンジャーとは中国問題で逆になるといけない、一冊の本では統一性がない。
- 2 世界恐慌は101%起こる。メジャーな国が全滅、知恵ある国が残ってリーダーになる。
- 3 二十世紀のシステムが全部入れ替わる。政治と経済がガラガラボンの時代。救えない。
- 4 天才が出るか、秀才の頭脳を集めるか、新しいシステムの構築に成功する国が指導者。
- 5 南米にも異変、「別の天意」があるかも。日本に救世主誕生の意味。もう一つのシナリオ
- 6 習近平はトランプ再選阻止に全力集中してる。目に見えない戦争をしかける意思はあった。(習近平無教養、ナチズムに無知、本能的指示、窮地:「超限戦」著者喬良は台湾戦・領土重視反対)
- 7 トランプはマスコミと民主党の二つの敵を持って苦しいが、一発ぶち込めば逆転する。
(中国共産党員・家族入国禁止法案、インド国境、フィリピン、ベトナム、尖閣などの支持、本気モードで守る宣言)
- 8 バイデン当選なら、一時的に中国有利になるが長くは続かない。時間差で共倒れもある。
- 9 中国は「ニセ金造りの経済学」で恐慌を起こす。(ニセの金延べ棒、上海造幣局偽ドル印刷)
実体・信用のない仮想通貨の運用で生き延びる国。日本は遅れているが、それが幸いする。
- 10 コロナ第二波、安倍も小池も居ない。小池知事は途中で降板。MMTは信用の問題。日本は国民の貯金を税金で取れることが信用のもとになっている。やがて貯金に課税する。
- 11 アフターコロナは経済学が一旦崩壊し、「人を避ける経済学」から「人の温もりのある」「二宮尊徳型」の経済学が生まれる。ソクラテス・ハイエク流の神霊経済学、霊言の価値経済学。
- 12 安倍政権は憲法改正せずに「緊急事態宣言」で敵地先制攻撃に切り替えたのだろう。
- 13 検察の問題: 日本の民主主義の腐敗、巨大買収王国が明白になる。本丸は「桜を見る会」
- 14 G・Eとはガラガラボンの危機の時代。実現党がクリーンを維持できたら機会が来る。
- 15 バックが別大陸にも発生し、別の天意? 日本発の世界宗教の環境作り? 舜・ルーズベルト
- 16 神仕組みは言えない。自分も予言グループの系譜ではあるが、許可は実体経済辺りまで。
- 17 特ダネは? 初代総理大臣が君なら、もっと良い時代が来たって? (松下村塾の吉田稔麿)
- 18 次期政権は「岸田対石破」の戦いで、親中幹事長は終わり。与党に座ることだけが眼目。
- 19 アジアを牽引するべき。弟子力が弱くて、光がローマに移ったようなドラマがあるかも。
- 20 仙台の気球騒動は防空能力、危機感の無さがバレた。細菌入り気球攻撃が可能と判断。
- 21 マスコミは「神の目から見た善悪の基準」という視点がない。やがて崇られるはず、タブロイド版にまで落ちるだろう。(ジーン・ディクソン最後の予言「善悪の大決戦が2020年に到来し、サタンが人類と対峙して戦う」「世界を一変させる救世主が東洋に現れる」「人類の希望は東方に」)
- 22 明治維新で龍馬が切られたのは失敗。明治帝に戸惑い。伊藤博文公はかなりのカルマを持っている。(持統帝として日本の歴史を短縮させた。明治期に廃仏毀釈運動で信仰心を貶とした?)
- 23 西郷隆盛は農業本位制の考え、龍馬は商業や貿易の頭があった、龍馬が近代化をやるべきだった。皇族と華族を残し、タイ王室と同じ権力を持った天皇制を残した。当会が報道されないのは、「皇室に代わろうとしているのと違うか」という疑いをもたれていることにある。(新・日本国憲法試案を周知させるべき、明治憲法のほうが天皇を危険にさらしている事実。創価学会も「総体革命」を顕示した時は池田天皇? 警戒されていたが、現在は諦めたので警戒が解けた)
- 24 コロナ後、スリリングで、なにが起きるかわからない、ワクワクする面白い時代だ。悪を暴いて崩壊させるのがマスコミの仕事。リバティーが国民の世論になる時代が来たとき、革命が成就している。だから戦うべし、政党が目立つように仕向けてやればよい。戦わないものは流行らない。今のままでは駄目。シヴァ神: 中国を一刀両断する英雄が出ないと駄目だ。